

令和 6 年度
自己評価報告書

学校法人晃陽学園

晃陽看護栄養専門学校

1. 開催概要

新型コロナウイルス感染の拡大・防止等の観点から書面決議にて実施

2. 学校関係者評価委員 ※敬称略

氏名	選任区分
清水 雄二	業界関係者
鬼澤 邦彦	業界関係者
黒沢 豊	地元有識者
沼野井 拓馬	卒業生
野村 剛秀	卒業生

I. 目標

【学校の教育目標】

- 1、専門職業人としての倫理観を持ち、主体的学習と自己の成長を促すための自発的態度を培う。
- 2、社会の変革に対応できる視野を持ち、人々の多様な価値観・ニーズを理解する能力を身につける。
- 3、各分野に関する専門的知識と科学的根拠に基づく判断能力・問題解決能力を身につけ、的確な実践力を養う。

【各学科の重点目標】

助 産	<ul style="list-style-type: none">・専門的な知識の修得を強化し、的確な助産診断ができるようにする。・助産技術の習熟を図り、適切な助産ケアが実践できるようにする。・助産チームの一員として役割と責任が果たせるようコミュニケーション技術を高める。・教育の質を確保し、学生の教育に対する満足を保証する。 •国家試験100%合格、学生の定員確保を目指す。
看 護	<ul style="list-style-type: none">・個々の学生の学ぶ姿勢を大切にし、主体的学習習慣を育てる。・基本的な知識を持ち、看護を実践できる能力を育てる。・地域の暮らしや生活を理解し、社会変化に適応可能な看護援助に対する視野を育てる。・看護倫理に基づいた看護学生としての意識を育てる。 •看護師国家試験合格率100%を目指す。
救 急 救 命	<ul style="list-style-type: none">・科学的な思考に基づく教育を目指し、高度な医療知識と適切な観察、判断、処置能力を養い、命を繋ぐ使命感と責任ある人材育成を図る。心構え ①自然な挨拶、礼儀の出来る道徳観のある学生 ②清潔な身だしなみの維持 ③コミュニケーション能力の向上④規律厳正 ⑤ボランティア精神の向上 ⑥健康管理
歯科衛生士	<ul style="list-style-type: none">・学生の定員確保 •国家試験100%合格 •学生の質を確保・学生満足度の保証 •チーム医療の一員として、コミュニケーション能力を身につける
管理栄養士	<ul style="list-style-type: none">・幅広い教養と人間尊重の心を持って、人々に寄り添い健康と栄養に関する専門性の高い技術で社会に貢献できる管理栄養士を目指す。
栄 養 士	<ul style="list-style-type: none">・人の身体と心を健康にしていく。 •実践力のある栄養士を育成する。
調 理 師 グランシェフ	<ul style="list-style-type: none">・調理師としての知識と技術はもちろんのこと、社会人として恥じぬような立ち居振る舞いができる学生を育てる。
パティシエ・スイーツ	<ul style="list-style-type: none">・パンや菓子づくりを通して基本を大事にする精神や思いやりを育み、社会に通じる戦力になる人を育てる。・国家資格取得に向けて受験生として挑み、日々の勉学に励む人を育てる。

1. 教育理念・目的・人材育成

A: 適切 B: ほぼ適切 C: やや不適切 D: 不適切

自己評価項目	現状の認識および評価		課題と今後の改善策
① 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	A	学園の建学の精神のもと、学校の理念、目的、人材育成像を定めている。 さらに各学科において重点目標を定めている。	
② 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生、関係業界、保護者等に周知がなされているか	A	入学前イベント・入学オリエンテーション・学校生活を通して、学生（保護者）に説明している。ホームページ上でも情報の公開をしている。	
③ 学校における職業教育その他の教育指導の特色は明確か	A	全ての学科が資格を取得する養成施設であり、資格取得するためのカリキュラムを編成している。多職種連携教育を行うため、複数学科でグループワークを実施している	
④ 社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	A	学校として、専門職に対する社会のニーズや要請をしっかりと把握し、将来構想を練っている。	
⑤ 各学科の教育目標、人材育成像は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	A	各学科の教育目標等において方向付けを行っている。そして社会のニーズに応えられるよう当校の教育目標を達した人財を輩出していく。	

2. 学校運営

A: 適切 B: ほぼ適切 C: やや不適切 D: 不適切

自己評価項目	現状の認識および評価		課題と今後の改善策
① 目的等に沿った運営方針が策定されているか	A	学園・学校の教育目的を基に学科ごとの方針を策定している。	
② 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	A	理事会・評議員会等で明確な事業計画が決議され、遂行されている。	
③ 運営組織や意思決定機能は明確化されていて、有効に機能しているか	A	職務規程、決裁規程により実施。毎月定例で校長、学科長、広報、事務局が出席し連絡会議を行っており、運営課題について協議し学内に周知している。	
④ 人事・給与に関する規定等は整備されているか	A	就業規則により整備されている。	
⑤ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	A	組織や人員は毎年見直しを行っており適材を配している。校務分掌は各部署・各委員会での協議・検討を経て意思決定を行っている。	
⑥ 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	B	業界や地域社会に対しての組織としての体制整備については、より進める必要がある。 具体的な体制整備については検討中である。	外部講師を招き、教職員を対象にハラスメントやコンプライアンスの研修を実施していく。

⑦ 教育活動に関する情報公開が適切になされているか	A	ホームページでの自己評価、学校関係者評価の公開を含め、パンフレット等を含め適切に情報公開を行っている。	
⑧ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	A	前年度稟議システムを導入し、その活用が浸透することが出来た。稟議決裁のスピードが向上した。財務データや給与データを登録するシステムは導入済であったが、学内の処理を行うようになり、実態把握がスピーディーに行えるようになった。	

3. 教育活動

A: 適切 B: ほぼ適切 C: やや不適切 D: 不適切

自己評価項目		現状の認識および評価	課題と今後の改善策
① 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	A	養成施設の基準を満たす教育課程を基本とし、本校の教育目標に沿った科目配置について毎年見直し行っている。	
② 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	A	各学科の目標は資格の取得であり、試験の合格に向けて授業内でフォロー出来る時間を確保している。	
③ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	A	学科ごとに体系的に編成している。	
④ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	A	他学科の学生・教員との合同演習など特色を織り込んでいる。学内の各学科と教育連携し、カリキュラムに反映している。	
⑤ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等の連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	B	カリキュラムの作成・見直しは随時実施しているが、全学科において必ずしも連携が十分ではない。	地域の企業職員を講師として授業を行った。更に連携を図っていく。
⑥ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	A	校外実習授業や外部講師を招聘した授業を行い、実習先や担当講師による学習評価を取り入れている。	
⑦ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	A	各学科カリキュラムに組み込み体系的に実施している。	
⑧ 授業評価の実施・評価体制があるか	A	期末に科目単位で授業アンケートを実施している。その結果を参考に担当講師と授業状況の共有を行った。	
⑨ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	A	各学科においてシラバスを作成しており、入学ガイドンスにて学生に明示している。	

⑩ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	A	各学科でそれぞれ資格取得に向けた授業をカリキュラムに取り込み、体制を整えて指導に取り組んでいる。	
⑪ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	B	専修学校設置基準及び各養成施設ガイドラインにある教員資格を満たす教員を採用しているが定数に未充足の学科もある。	引き続き、資質のある教員の確保に努める。
⑫ 関連分野における業界等との連携において優れた教員の確保に努めているか	B	教員の指導力、資質向上につながるよう専門分野の外部講師を招いた研修が不足している。	専門分野の優れた外部講師を招聘し教員の資質向上を行っていく。
⑬ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組みが行われているか	A	教員の指導力、資質向上につながるよう外部研修に積極的に参加することを奨励している。	

4. 学生指導（私立専門学校等評価研究機構に記載有） A：適切 B：ほぼ適切 C：やや不適切 D：不適切

自己評価項目	現状の認識および評価		課題と今後の改善策
① 基本的生活習慣の確立のための取り組みが行われているか	B	担任制による毎朝の出席確認、遅刻・早退者への指導、身だしなみのチェックを行っているが、自発的な挨拶が出来ないことがあり指導が浸透していない部分があった。	先生からも毎回挨拶をするよう学園内で奨励する。
② 学生・保護者からの相談体制が整備されているか	A	担任が相談・面談を行っている。また、必要時は各学科の責任者との相談体制も設けている。今後、学生用の相談窓口の設置も検討している。	
③ 通学・就職指導にかかる支援体制は組まれているか	A	遠方からの入学者に対し、女子学生会館を完備、アパートや駐車場の斡旋（不動産会社の紹介）を行っている。学生会館については、外部委託により 24 時間の管理体制を整えている。就職については求人票の掲示、面談、関連業界を招いての説明会等を行っている。	
④ 学生の安全管理のための取り組み等（災害救済保険、スクールカウンセラー、発達障がいのある学生等への支援など）が行われているか	A	学校保険の加入、アレルギー体質者への給食指導、持病を持つ学生への注視、保護者との密な連絡体制の構築を心がけている。	

5. 学修成果

A：適切 B：ほぼ適切 C：やや不適切 D：不適切

自己評価項目	現状の認識および評価	課題と今後の改善策

① 就職率の向上が図られているか	A	各学科において専門分野への高い就職率を維持している。	
② 資格取得率の向上が図られているか	A	各学科で目標である資格取得に向けて、継続的な対策授業や模試を実施し合格率向上に努めている。	
③ 退学率の低減が図られているか	B	学力低下のみならず、精神的な問題から休学する学生があり、復学出来ないまま退学している。保護者を交えた面談を実施しているが一定数の退学者が発生している。	意欲が低下している学生へ初期段階で保護者を交えた相談体制を強化していく。
④ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	A	広報担当者、教員が就職先を訪問し、職務に対する意識や活動内容の把握に取り組んでいる。また、在校生については面談等で把握している。	
⑤ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	A	卒業生を招聘し授業や意見交換会を実施する機会を作り、社会人となった自分をイメージし職業に対する意識付けを高めている。	

6. 学生支援

A: 適切 B: ほぼ適切 C: やや不適切 D: 不適切

自己評価項目	現状の認識および評価		課題と今後の改善策
① 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	A	各学科により卒業生の就職試験報告書を自由に閲覧できるような体制をとるなどの工夫をしている。個別面談を実施し本人の希望に沿った就職先の斡旋を行っている。	
② 学生相談に関する体制は整備されているか	A	担任による個別面談の実施（生活、授業、校外実習など）を行っている。	
③ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	A	日本学生支援機構の相談、都道府県その他奨学金制度や企業との提携による学費借り入れ制度や民間の教育ローンに関する案内（掲示・配布）、また個別相談等を行い、学費延納にも配慮している。	
④ 学生の生活環境への支援は行われているか	A	女子学生会館（2棟）の設置、入学前のアパート・駐車場の斡旋（不動産会社の紹介）、本校の連携企業へのアルバイトの斡旋等を行っている。	
⑤ 学生の健康管理を担う組織体制があるか	A	年度当初の健康診断の実施および看護教員常駐の保健室を設置している。また、季節、状況に応じた予防接種を実施している。	
⑥ 課外活動に対する支援体制は整備されているか	A	栄養・調理・製菓等のコンテスト、近隣市町村イベントへの参加や市の依頼によるイベントへの協力等積極的に参加している。	
⑦ 卒業生への支援体制は整備されているか	A	再就職のための情報提供、相談に応じている。学科により国家試験再受験者の学内セミナーへの参加、受験当日の引率、指導を行っている。	

⑧ 関連分野における業界との連携による卒業後の再教育プログラム等が行われているか	B	定期的な教員の訪問等により連携は行っているが、再教育プログラムは行っていない。	必要に応じて検討していく。
⑨ 保護者と適切に連携しているか	A	特に出席日数不足、成績不振の学生の保護者に対しては密に連絡を取り、面談等を行って対策を講じている。定期試験の成績報告は郵送により保護者あてに通知している。	
⑩ 社会人入学生のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	A	公共職業訓練や教育訓練給付金制度の活用等、各学生に対し、給付金受領の説明や事務手続きの案内を行っている。	
⑪ 高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか	A	各高校からの依頼による講師派遣、インターンシップの受け入れ等を積極的に行っている。	

7. 教育環境

A: 適切 B: ほぼ適切 C: やや不適切 D: 不適切

自己評価項目	現状の認識および評価		課題と今後の改善策
① 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	A	古い建物（校舎）の設備において故障が発生する場合があるも、順次修繕の対応を行っている。	
② 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	A	学外の実習施設（全学科）については、教員による施設訪問、打ち合わせ等を密に行い、施設の確保に努力し規定の時間数の確保を維持している。	
③ 防災に対する体制は整備されているか	A	防災マニュアルを作成し、各部署に備えている。	

8. 学生の受入れ募集

A: 適切 B: ほぼ適切 C: やや不適切 D: 不適切

自己評価項目	現状の認識および評価		課題と今後の改善策
① 高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組みが行われているか	A	広報担当者による学校訪問や進路ガイダンス参加での案内、在校生の状況も報告している。	
② 学生募集活動は適正に行われているか	A	学校や学科の特徴、取得資格、就職状況を説明、誤った進路の選択をしてもらえるよう努めている。	
③ 学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報が正確に伝えられているか	A	各学科の資格取得率、就職状況についてはパンフレット等で正確に伝えている。	

④ 学生納付金は妥当なものとなっているか	A	近隣他行とも比較をして学費の金額設定をしている。諸費についてもオープンキャンパス等で概算額の説明も行っている。	
----------------------	---	---	--

9. 財務

A: 適切 B: ほぼ適切 C: やや不適切 D: 不適切

自己評価項目	現状の認識および評価		課題と今後の改善策
① 中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか	B	平成31年開設の学科が全て完成年度を迎えて、全体の学生数において徐々に安定している。	学生募集の強化に努める。
② 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	A	少子化もあり減収傾向にはあるも収支バランスのとれた予算を策定し、学校運営を行っている。	
③ 財務について会計監査が適正に行われているか	A	決算は寄付行為に基づき監事監査を受け、理事会・評議員会において承認を受けている。	
④ 財務情報公開の体制準備はできているか	A	決算書・予算書は事務局に保管、希望により閲覧できる状態となっている。	

10. 法令等の遵守

A: 適切 B: ほぼ適切 C: やや不適切 D: 不適切

自己評価項目	現状の認識および評価		課題と今後の改善策
① 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	A	関連法令を遵守し適正な運営を行っている。	
② 個人情報に關し、その保護のための対策がとられているか	A	パソコンの個人情報はセキュリティのかかったサーバで保管、管理している。書類は施錠の上、キャビネットに保管している。	
③ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	B	自己評価については令和元年度より実施している。実施方法や問題改善のための取り組みについては順次取り組んでいる。	引き続き、問題点の解決に向けての話し合いを強化していく。
④ 自己評価結果を公開しているか	A	令和元年度より本校ホームページにて公開している。	

11. 社会貢献・地域貢献

A: 適切 B: ほぼ適切 C: やや不適切 D: 不適切

自己評価項目	現状の認識および評価		課題と今後の改善策
① 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	A	小・中学校の家庭教育学級からの依頼による料理教室、高校の体験実習、見学会等を積極的に受け入れている。また、令和2年8月には古河市と災害時の妊産婦避難所設置に係る協定を締結している。	
② 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	A	古河市や近隣自治体と連携をし、市主催行事等へのボランティア参加を積極的に行っている。(令和6年度実績：スポーツフェスティバル・花桃ウォーク 等)	
③ 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	A	小・中学校の家庭教育学級からの依頼による料理教室、教育訓練等積極的に行ってい	

III. 昨年度（令和5年度）学校関係者評価委員からの意見、質疑に対する到達状況

評価項目	意見・質疑	学校の応答
3.教育活動	(意見) ほぼ適切の評価（B）が多く、先生方の努力が伺えます。 引き続きお願ひします。	各学科共に資格を取得するという目標を持って入学している学生に対し、目標達成のためのカリキュラムを設定している。同時に教員のレベルアップするため、外部研修への積極的な参加を奨励している。
7.教育環境	(意見) 校舎の維持には計画的に対応してください。	エレベーターや電気設備は保守契約を結び専門業者の点検を受け、製造中止のものや修理頻度の高いものを優先し設備の入替を行っている。PC や車両等入替時期のわかるものについては計画的に入替を実施している。
8.学生の受け入れ募集	(意見) 各学科、資格取得率、就職状況の広報伝達は必要です。発信を続けて下さい。	ホームページの更新頻度を高めて最新情報を公開している。また、各学科ではインスタグラムを設定し、最新情報や学科での活動状況を公表している。
10.法令等の遵守	(意見) 教員数が不足しているように伺えるが適正な人員の確保をお願いしたい。	教員数が定員未満の学科もあるが、兼任講師や外部講師を手配し教育に支障がない状況を作っている。外部講師を専任教員として雇用する、卒業生を教員として募集する等の行動をとっている。引き続き求人を行っていく。
11.社会貢献・地域	(意見) 災害時の対応（妊産婦避難所設置）、市行政への協力、引き続き貢献してください。感謝しております。	昨年度も古河市との包括提携協定に基づき、古河市スポーツフェスタ、ウォーキング大会、新茶まつり、防災訓練等数多くのイベントにボランティア参加させていただいている。今後も積極的に地域ボランティアに参加していきます。

IV. 学校関係者評価委員からの意見、質疑・学校の応答

評価項目	意見・質疑	学校の応答
1, 教育理念、目的、人材育成	(意見) 専門分野の特性において重点目標が定められており、今後も継続してください。	
2, 学校運営	(意見) 情報システム化コンプライアンス体制整備につとめてください。	
3, 教育活動	(意見) ほぼ適切の評価（B）が多く、先生方の努力が伺えます。引き続きお願いします。	資格を取得するための指導を心がけており、教員の研修によるレベルアップ、指導方法、教材の選定等情報を収集しながら検討している。
4, 学生指導	(意見) 相談体制の充実・努力が伺えます。基本的生活習慣の指導をお願いします。	
5, 学修成果	(意見) 資格取得の向上のため、意欲の低下している学生への指導を継続してお願いします。	
6, 学生支援	(意見) 学生相談、経済的な支援体制、生活環境への支援等、学生の頑張りにつながります。継続をお願いします。	
7, 教育環境	(意見) 校舎の維持には、計画的に対応してください。	各学科からの申請をもとに優先順位を決めて維持管理を行っている。
8, 学生の受け入れ募集	(意見) 各学科、資格取得率、就職状況の広報伝達は必要です。発信を続けて下さい。	ホームページの更新頻度を高めて、最新情報を公開して参ります。SNS等を通じての発信も続けて参ります。
9, 財務について	(意見) 安定した学校運営のために生徒募集に努めて下さい。	
10, 法令等の遵守	(意見) 教員数が不足しているように伺えるが適正な人員の確保をお願いしたい。	教員数が基準以下の学科もあるが、その他の基準は満たしており、定期的な監査でも高評価を得ている。引き続き募集をしていく。
11, 社会貢献・地域	(意見) 災害時の対応（妊産婦避難所設置）、市行事への協力、引き続き貢献して下さい。感謝しております。	昨年度も古河市との包括連携協定に基づき、古河スポーツフェスタの運営補助ボランティア等に参加させて頂きました。今後も継続して積極的な参加を続けていきたいと考えております。